

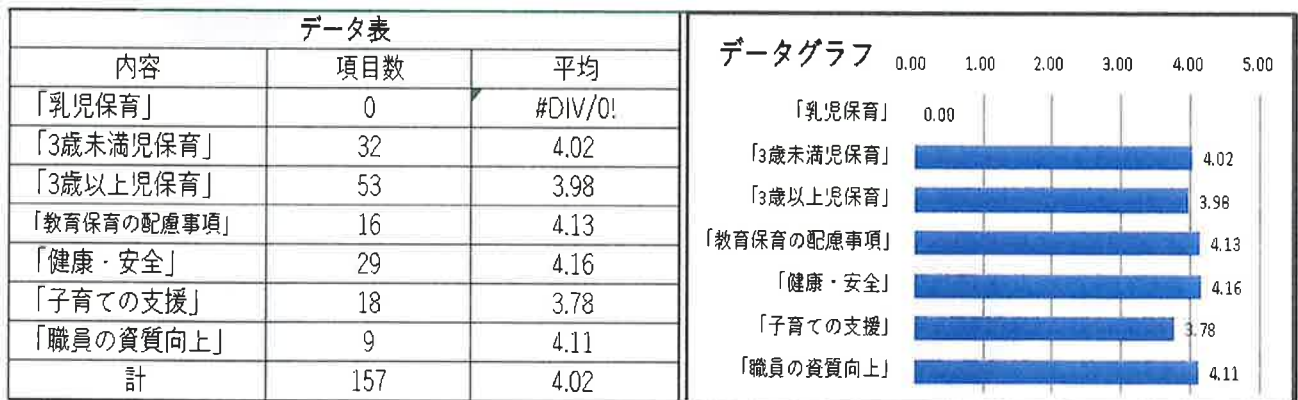
2023 年度 こども園教育・保育要領に基づく自己評価

乳児保育	乳児保育が人格形成の土台をつくっていく。愛情豊かで受容的・応答的な関わりを通して、愛着関係を形成し、人に対する基本的信頼関係を培っていく。周囲の大人から愛され、受け入れられ、認められていることを実感し、自己肯定感を育んでいく。安心できる、安定した環境の中で活動範囲がひろがり、探索しながら世界を知っていく。保育者が園児一人一人の存在を大切に感じ、温かい家庭的な雰囲気のもとに、愛情をより注いでいきたい。
3歳未満児保育	「ひとりひとりと丁寧に関わる」「あたらしい世界との出会い」食事、排泄、昼寝等で担当を決め、一人一人と丁寧に関わっていきける環境を整えてきた。保育者も子どもたちも最初は戸惑いや不安をみせていたが、時間が経つにつれ、自分の担当の先生に愛着をもつようになっていった。一人一人と関わることで、目の前の子の成長をより感じられるようになっていく。着替え等で人権を意識しながら、「自分がされていやなことはひとにしない」ことを確認しながら、「人として」子どもたちと暮らしてきた。今後も日々の保育、子どもの姿を語り合い、職員同士で連携していきたい。
3歳以上児保育	「保育者の遊びを広げたり、深める関わり」「子どもの発想やアイデアを引き出していか」子どもたちが安心感や居心地感を感じ、自ら環境に関わっていく姿を大切にしてきた。子どもたちは落ち着いた環境の中、さまざまな環境に興味・関心を持ち、好奇心を広げている。また、「自分で選んで自分で決める」環境の中で、自尊と自律を育てている。遊びや生活を通して、子どもたち自身が多くを学んでいると感じている。子どもたちの声やつぶやきを保育に活かし、子どもたちの興味や関心を広げてきた。来年度は「子どもの主体性を尊重」し、より保育者の主体性を発揮し、子どもたちと保育者で新しい世界を創造していきたい。
教育保育の配慮事項	月齢差が大きく、一人一人の生育歴、家庭環境、様々な違いの中で、「一人一人と丁寧に関わる」ことを大切に保育している。年度途中から担当保育者を決め、より一人一人の愛着の形成や育ちを大切にしてきた。言葉、表情や仕草、声色等で保育者が読み取り、子どもの声を代弁したり、共感していきながら、人の温かさ、人への信頼感を育むように努めている。子どもの立場を想像し、「自分がされていやなことはしない」ことを意識しながら、子どもたちと生活を営んでいる。
健康・安全	健康支援については、保護者の協力のもと、保育者と看護師が専門性を活かしながら、子どもの健康に対応している。子どもたち自身もコロナ禍を経験し、消毒やマスク等、健康については高い意識をもっているように感じる。食育に関しては、栄養士と調理師、保育者と協働しながら、プランター栽培、みそづくり、焼き芋、…など、様々な食育の機会を作ってきた。自分が育てたものを食べる経験、調理師と共に食育をする経験。食への関心が広がってきた。安全管理については、安全管理委員会を設け、保育者間で保育室や戸外の遊具を適宜点検し、園全体で取り組んでいる。定期的に行う避難訓練では、時間や設定を変え、予想外の状況にも対応できる体制を整えている。
子育ての支援	地域の子育てセンターの役割を担う。保護者と園の生活、生活と遊びを通して子どもたちの育ち、等を共有している。誕生日に保護者の方に来園していただき、子どもたちと共に遊び、生活し、園の生活を味わってもらっている。また、行事においても親子で楽しむ機会を増やし、子どもたちや保護者が楽しみ笑顔になることにつながっている。見せる行事から子育ての喜びを感じる行事へ転換していった。来年度もさらに地域、園、保護者とともに子どもたちの育ちを支えていく取組みを増やしていく。
職員の資質向上	職員の研修機会を確保してきた。リーダー研修、副主任会議。専門リーダーにおいては、園内研修を担当してもらう機会をつくった。新人研修を定期的実施した。各職員が必要な研修になるように計画し、実施。また他園の保育視察やオンライン研修。様々な資源を活用し、園全体で学びが深まる取組みを行ってきた。キャリアアップ研修を活用し、保育力アップに努めた。園内研修での対話や園内での公開保育を行い、保育について語り合う機会になった。年間の振り返りでは、それぞれの学年での子どもたちの育ちを写真やエピソードで見える化し、職員間で子どもの育ちを共有することで、1歳からの連続性、1・2歳児の愛着の形成、3歳以上の思考や挑戦、探求心…、子どもの育ちを分かち合った。安心感・居心地感を土台に、教育・保育を通して、生きる力、生き抜く力につながっている。社会の変

化が激しい時代だからこそ、正しい知識とそれに基づく実践を大切にしていきたい。「昭和の保育観」「急かす保育」からの脱却。「一人一人と丁寧に関わっていく」保育をさらに探求していく。

総合

「一人一人と丁寧に関わる」「自尊と自律を育む」「遊びと生活を通して、保育する」「食を通しての命を育む」ことを大切に保育と子どもたちと向き合ってきた。1・2歳児は担当制をはじめ、一人一人と丁寧に关わることで愛着の形成を育んできた。担当制の理解、保育者間の連携、子どもたちとの関係等、実践を繰り返し、子どもとの愛着の大切さを一人一人の保育者が感じている。子どもたちが安心感と居心地感を感じ、「子どもが主体的に遊び、自ら環境に関わっていく」姿が見られる。担当制をはじめ、人権意識や教育的な配慮に関して、保育者一人一人の意識が高くなった。食事、排泄、昼寝の生活する部分では担当職員が丁寧に关わる。一人一人の身体の育ち、心の育ちをより身近に感じている。丁寧に人として関わること、温かく関わってもらったことが人格形成の土台を作っていく。保育環境の大切さを職員一人一人が感じている。子どもたちを観察し、そして保育環境を見直し、また環境を構成する。保育者のねがいと子どもたちの声や主体的な姿のバランスをとりながら、日々の暮らしを積み重ねてきた。こどもたちが十分遊ぶ時間、空間、人を保障し、子どもたちが遊びこみ、遊びに夢中になることを目標にしてきた。遊びに夢中になる姿が多々見られるが、遊びに入れない子、支援が必要な子を含めた遊びや関わりについては課題が残る。保育者が遊びに介入し、子どもたちの気持ちや想いを知ることで、遊びがさらに深まり広がっていく。次年度も保育環境(人的・物的)を見直し、子どもたちの育ちを支えていきたい。小学校の教諭に来ていただき公開保育を実施、子どもの姿をドキュメンテーションにし、保育や子どもたちについて共に学んだ。小学校と園、互いを認め合い深めていく。小学校との交流会や田植え・こんにやく工場見学、グリーンセンターでの買い物、地域と関わりながらさらに開かれた幼稚園を進めていく。子育て支援では、保育の見える化、「遊びや生活を通して学んでいる」子どもたちの姿を実際に見てもらい、子どもや保育、遊びについて学ぶ機会を作ってきた。次年度も研修等の機会を確保し、さらに保育の質を高め、子どもたちの大切な時間がより輝けることを目指していく。



◆今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
1 子どもの人権	「一人一人を丁寧に保育するとは」「子どもの人権の理解」 担当制 乳児保育の充実 子ども理解 保育環境 ハラスメントの理解
2 保育内容 環境構成(しかけ)	「対話」と「環境構成(しかけ)準備」(そして振り返り) 副主任ミーティング(リーダー研修) 新人研修 未満児ミーティング・幼児ミーティングを月1回実施
3 心理的安全性 多様性の尊重	「心理的多様性を豊かにする組織づくり」「学び続ける組織づくり」 メンター制、対話型園内研修、外部研修活用(これからの保育) 園内研修での対話の機会を増やしていく
4 保護者への支援	こどもの姿を伝え、子育て力の支援をおこなっていく